

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1171700261
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	こうのすケアセンターそよ風
所在地	〒365-0036 埼玉県鴻巣市天神4-32-1 (電話) 048-542-3260

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月24日

## 【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	35,000円+実費	
敷金	有( 100,000円 )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,400円				

### (4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こうのす共生病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JR高崎線鴻巣駅よりタクシーで10分弱程の所に位置し、鉄筋コンクリート造りの2階建ての大きな通りに面した建物である。併設施設としてデイサービス・ショートステイ・ホームヘルプサービス・居宅介護支援事業所があり、総合センターのようになっている。グループホームは2階部分にあり、2ユニットの定員18名である。周囲は民家となっており、近くには福祉の専門学校があり、実習の受け入れなども行っている。ホーム内はかなり広くスペースがとってあり、「いずみ」・「のぞみ」の各ユニットは事務室を挟んで線対称にあることから、夜勤者が動きやすい構造になっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題について、センター長を中心に話し合いが重ねられている。引き続きの課題はあるが、改善に前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が自己評価票の記入・作成を行っており、作成過程で他の職員との話し合いは持たれていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、おおそ2か月に1回、計画し実施されている。会議は、地区の地域包括支援センターや家族の代表など、メンバーを揃えて行われており、ホームの課題に関しても話し合いの議題になっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>開設から5年を経過し、家族とはコミュニケーションが図られている。入り口には意見箱が設けられており、良い意見が入ることもあることから、職員の大きな励みになっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の祭りをはじめ、地域の様々な行事に利用者と職員が一緒に積極的に参加することで、地域との交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念のほかに、利用者が住み慣れた地域で安心した環境の中過ごしていくための理念を事業所として掲げ、職員全員で取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に渡される“そよ風手帳”とともに、朝・夕の申し送り時に理念を確認している。なお、理念はケアカンファレンスなど問題解決の糸口となる指針になっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のお祭りをはじめとした地域で開催される様々な行事に、利用者も職員と一緒に積極的に参加することで、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	センター長を中心に前回の改善課題について話し合いが重ねられており、引き続きの課題はあるが、前向きに改善に取り組んでいる。今回の自己評価票については、管理者が記入・作成を行っており、作成過程において他の職員との話し合いは持たれていない。	○	評価を受けることの意義の理解とともに、業務を行う職員の振り返りをするという位置づけとして、職員全員が自己評価に関わりを持てる仕組みを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、おおよそ2か月に1回開催されている。会議は、地区の地域包括支援センターや家族の代表など、メンバーを揃えて行われており、またホームの課題についても議題にとり上げて話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	他市からの受け入れについて、市町村での協議会が開かれている。介護保険の手続き等で役所の窓口に行くこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時等に口頭で日々の様子を伝えている。センター長、管理者、介護支援専門員にも生活上の問題などが伝わるようになっており、解決に向けての取り組みは書面でもしっかりと記録されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されており、また家族から何でも話してもらえる雰囲気作りを心がけている。意見箱の中には良い意見もあり、職員の大きな励みとなっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、退職については家族から聞かれた際に話しており、利用者にはダメージや大きな不安を与えないよう、敢えて伝えることは避けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修については、職員のシフト勤務の都合等から参加が難しいこともあるが、社内研修については、年間の研修計画を立てて勉強会を行っている。また、当日参加できなかった職員へのフォローも行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の中に、複数の施設やサービス事業所を有しており、合同の勉強会を実施している。また、併設のデイサービスやショートステイなどの職員は委員会などを合同で行っており、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心してサービスの利用を開始できるように、申し込みから入居までの間、職員と共に話し合い、利用者や家族の思いを大切にしながら受け入れの準備をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の継続性を大切にしている。若い職員も多く、利用者から料理のこつなど教えてもらったり、会話の中でも様々なことを学び、共に生活しながら関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>短い時間でのカンファレンスを何度も行っており、そのつど情報を共有し、利用者の思いや意向、現状を把握するとともに、今後のケアにつなげている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員が作成した計画を基にカンファレンスを開いて話し合い、家族の意見も踏まえて介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画については定期的な見直しとして6か月に1度行われ、また利用者の状態の変化に応じた見直しが行われ、記録もきちんととられている。家族の意見や職員の思いなど、カンファレンスで共有されており、プランに活かされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	半分以上の利用者が併設のデイサービスやショートステイなどからの受け入れである。また、利用者の状況に応じて1階のデイサービスの機械浴槽を使用して入浴を支援したり、他市からの受け入れについて地域協議会を開催したりと、多様なニーズに応えようと努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が望むかかりつけ医を受診することができる。なお、ホームのかかりつけ医は、送迎車を用意するなどの配慮がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを行った経験がある。本人や家族の希望を大切にしながら、ぎりぎりまでホームで過ごすことができた。本人、家族と話し合いながら、受け入れる体制ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、守られなければならない利用者の権限や個人の情報などについて理解した上で業務にあたっている。経過記録については家族がいつでも閲覧できるようにしていることから、書き方などには細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、食事・入浴・レクリエーションなどでは、『今日はどうしますか』と声掛けをし、本人の気持ちやペースを尊重した支援を心がけている。問いかけに対して特に返答がなければ、今何ができるか見出してケアをしていくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食では夜勤者が一緒に食べているが、朝・昼食については、職員と一緒に食べられていない。利用者の中には食器の下膳や洗い物などに参加している方もいる。		利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで食事をするについて話し合いがもたれることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は午後と決まっているが、毎日入る方もいれば、1日～2日おきに入る方もいる。利用者の希望や状況に応じた入浴の支援を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームで行事(外出・おやつ作りなど)を行ったり、併設のデイサービスやショートステイなどと合同で開催する行事に参加するなど、楽しみのある生活となるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体機能の低下を防ぐため散歩に行くなど、利用者の体調や状況に合わせてながら、できる限り外出するように心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームが2階にあることから、エレベーター・ホールがあり、そこへの通路には施錠しているが、運営推進会議でも議題に挙げ、家族の理解を取りながら改善に取り組んでいる。職員は利用者の様子を察し、一緒に付き添って外出するなど、個々に応じた支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6か月に1度、避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行われている。併設の事業所との訓練であり、地域と連携を取ったものではない。	○	日ごろから地域の人々の参加、協力を得ながら一緒に訓練を実施するなど、隣近所との連携を深めて地域との協力体制を築くことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、利用者一人ひとりの記録がきちんと残されている。また、その人の身体状態に合わせた対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物はシンプルな造りとなっており、採光もとれて明るい雰囲気である。また、プライベート部分とパブリック部分が分けられ、利用者は穏やかに過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の好みの物や使い慣れた馴染みの物を持ち込むことができる。居室内は、それぞれ持ち込んだ家具などで個性あふれた空間になっている。		